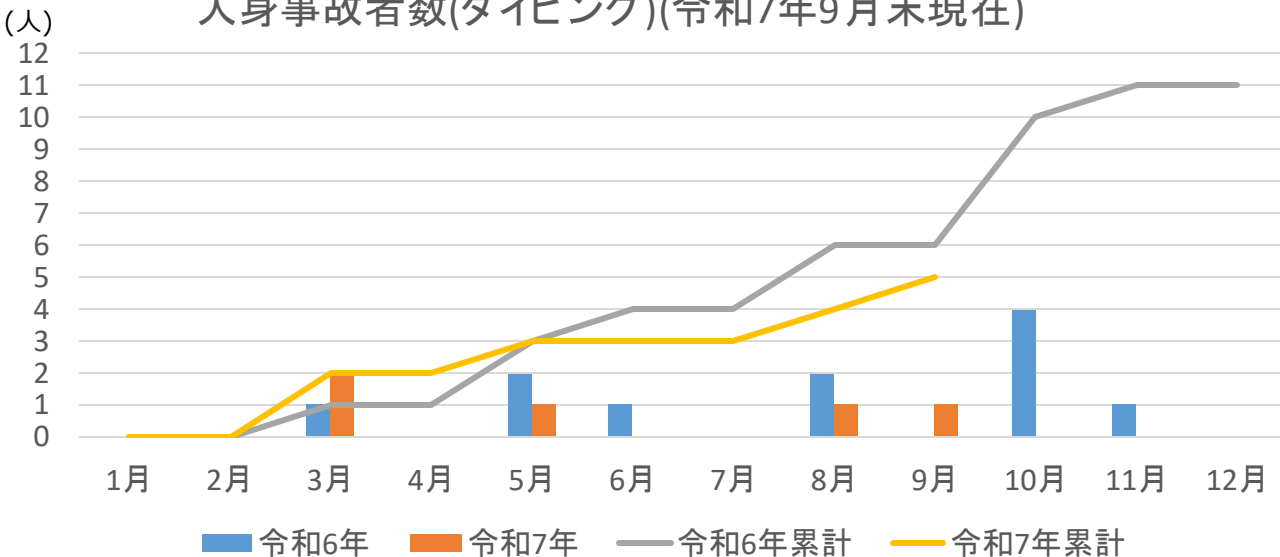
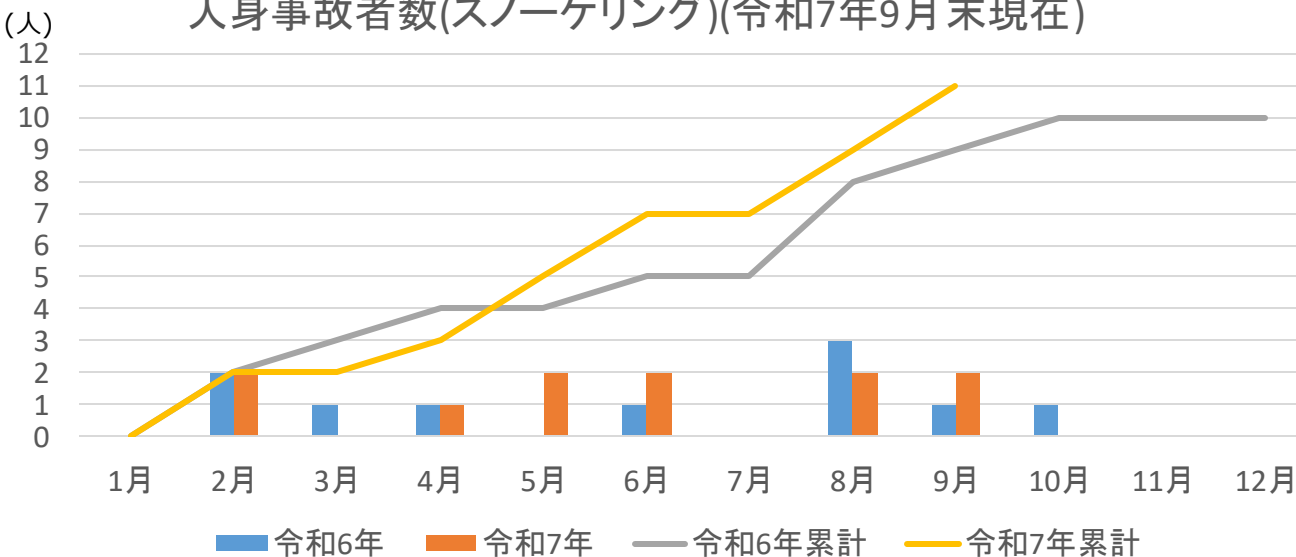


人身事故者数(ダイビング)(令和7年9月末現在)



人身事故者数(スノーケリング)(令和7年9月末現在)



\* 管轄区域：5市11町村  
 那覇市、豊見城市、糸満市、浦添市、  
 宜野湾市、嘉手納町、北谷町、南風原町、  
 八重瀬町、久米島町、恩納村、読谷村、  
 渡名喜村、粟国村、座間味村、渡嘉敷村

時期	活動内容	場所	事故者	被害	経緯
8月	ダイビング	恩納村沖	10代 男性 県外在住	軽症	事故者は友人3名と体験ダイビングに参加を参加した。2本目の潜水時に写真撮影をしていたところ、ゲップをした際、啞えていたレギュレーターを離してしまい、海水を誤飲した。インストラクターがすぐに海面まで引き上げ、浮上後に休憩するも咳が止まらないためエントリー場所に戻った。その後救急車にて病院に搬送され、肺水腫との診断結果を受け、1日入院となった。
8月	スノーケリング	読谷村沖	40代 男性 県内在住	軽症	事故者は会社の同僚2名の計3名でスノーケリングをしていたところ、海水を誤飲して溺れたため、付近にいた同僚に助けを求め、救助された。事故者は自力歩行が可能であったことから、同僚が付き添って浜に上がった。その後、現着した消防救急隊にて事故者のバイタル等を確認するも異常はなく、体調が回復した。
8月	スノーケリング	慶良間 諸島	60代 男性 県外在住	死亡	事故者は友人ら3人とスノーケリングを開始した。その約1時間後、別の通りがかかった通報者が波打ち際付近で浮いている事故者を発見し、通報した。到着した消防団により、蘇生措置が行われたものの、診療所の医師により死亡が確認された。
9月	スノーケリング	恩納村沖	10代 男性 県外在住	軽症	事故者は友人3名とスノーケルを開始し、その約30分後、陸に向かって遊泳していたところ、右肩を脱臼した。事故者は、インストラクター及び友人の介助により陸まで上がり、救急車にて病院に搬送された。病院にて麻酔処置後に肩をはめ、当日退院した。
9月	ダイビング	恩納村沖	40代 女性 外国人	重篤	事故者は、同僚3名とダイビング業者のインストラクター2名の計6名で体験ダイビングのために入水した。事故者及び同僚3名はレギュレーターを啞えた仰向けの状態でインストラクター2名が事故発生場所まで牽引したところ、事故者が緊張した様子であったため、事故者とインストラクター1名、同僚3名とインストラクター1名の2班に分かれることとなった。事故者を引率していたインストラクターが事故者の左足にフィンを取り付けようとしたところ、事故者が右に回転し顔が海中に没する体勢となり、すぐさま元の体勢に立て直したところ、親指を上を立てるハンドサインをしたので、事故者を入水場所まで牽引し、陸上に引き上げた。引き上げ後、事故者の心肺が停止していたため、付近にいた他のインストラクターにより蘇生措置が行われた。救急隊が現場到着。その後、事故者の心拍が再開。ドクターヘリにて病院へ搬送された。事故者は搬送先の病院にて治療を受け、数日後に意識が回復した。(詳細調査中)
9月	スノーケリング	慶良間 諸島	20代 男性 外国人	死亡	事故者は、友人2名とスノーケルツアーに参加し、スノーケルを行っていた。事故者はスノーケルツアー終了後の自由時間に再度同じビーチでスノーケルを行っていたが、しばらくして、波打ち際でうつ伏せで浮いているのを付近にいた一般人により発見された。ライフセーバーにより陸上に引き上げられ、心肺蘇生が行われたが、診療所の医師により死亡が確認された。事故者は事故当時、マスク、スノーケル、ラッシュガードを着用していたが、救命胴衣は着用していなかった。(詳細調査中)

## 冬の強風・波浪による乗揚げにご注意を。

例年、冬場にダイビング船の乗揚げ事故が発生しています。急な突風やうねりにより船位の確保が困難となる可能性がありますので、天候には十分ご留意願います。

【事例1】令和5年12月、ルカン礁付近

船長1名と客4名は、ダイビングスポットにおいて、付近海上の珊瑚礁に座礁した。船長は、浅瀬を認識していたが、強風により船体が押されていたことを把握できず乗揚げに至った。客4名は僚船に、船長は船固め等実施後に当庁巡視船に収容された。

【事例2】令和6年12月、慶良間諸島

スタッフ6名と客18名は、ダイビングポイントに到着し、アンカー後にダイビングを開始した。ダイビングを終え、アンカー回収作業直後、風又は波浪により船体が浅瀬に押され乗揚げた。当庁及び航空自衛隊の航空機により乗員は全員救助された。

## iPhoneの緊急SOSの誤発信防止にご協力願います。

近年、iPhone等に緊急SOS機能が搭載されるようになりました。これは任意の操作又は条件を満たした際に警察(110番)、海保(118番)、消防(119番)につながるものです。

先日、Apple Watchをつけたダイバーが船よりダイブした際に「転倒を検知」し、自動的に緊急SOSが発信されましたが本人は気づかず、携帯電話がつながらない地域であったため、iPhone衛星中継センターより当庁あてに118番通報がありました。数時間後に沖縄本島に帰港した本人と連絡が取れ、安否確認できました。本件のように、携帯電話の電波が届かない場所では安否確認等に時間を要し、救助活動に支障を来す場合もあります。特に携帯電話の電波が届かない無人島付近等をダイビングスポットに設定している事業者様は、お客様の緊急SOS誤発信防止にご配慮いただくと幸いです。

# ダイビング船 安全対策ガイドライン



令和7年7月

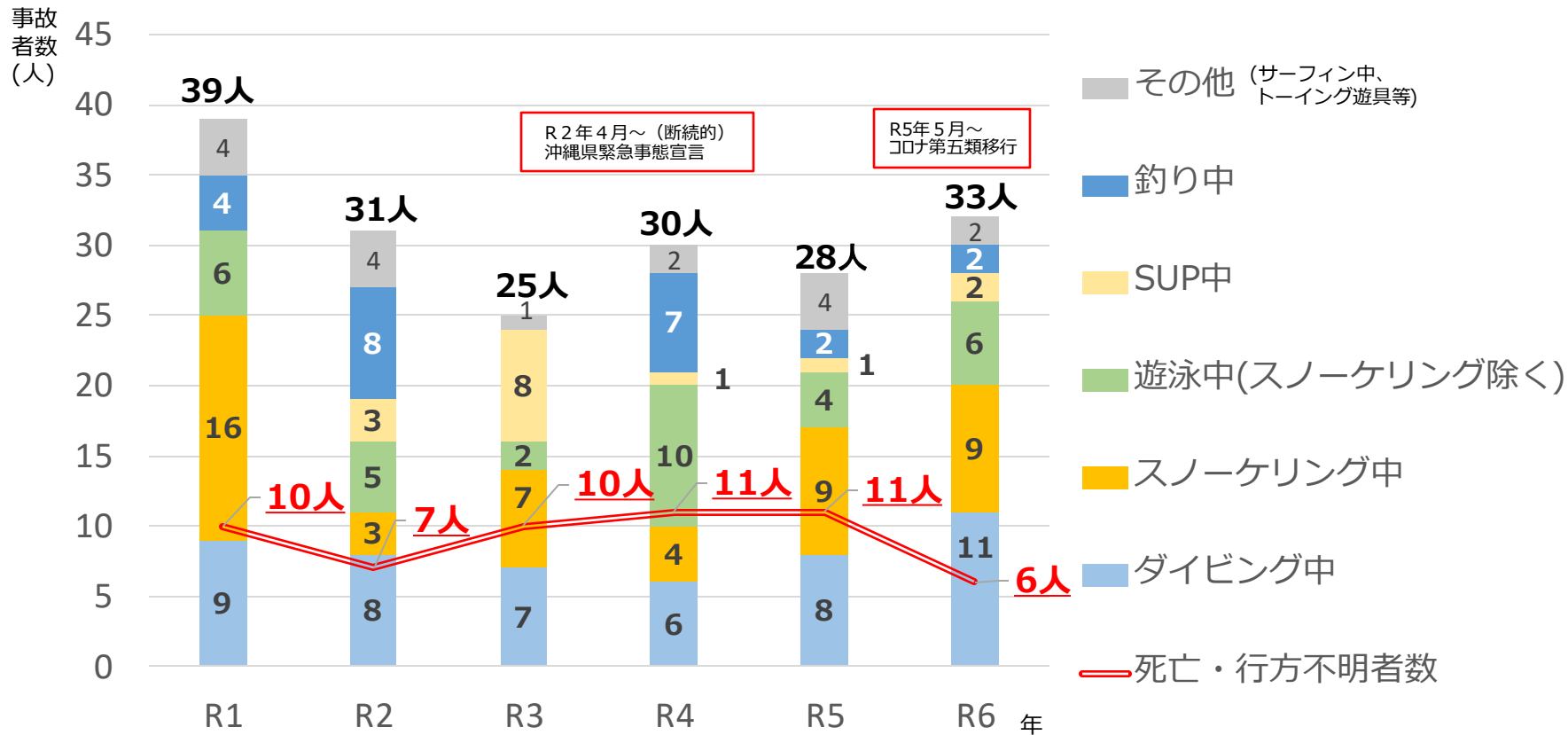
国土交通省

## ダイビング船の安全対策ガイドラインが策定されました！

国土交通省では、多数のダイバーを乗せたダイビング船による海難事故が相次いで発生したことを踏まえ、昨年度、ダイビング船の運航に係る実態調査を実施すると共に、今年4月より有識者や業界関係者等からなる「ダイビング船の安全対策検討委員会」を開催し、ダイビング船の安全対策についてハード・ソフトの両面から検討を進め、今般、「ダイビング船安全対策ガイドライン」を策定しました。

詳しくは以下URLからご参照願います。

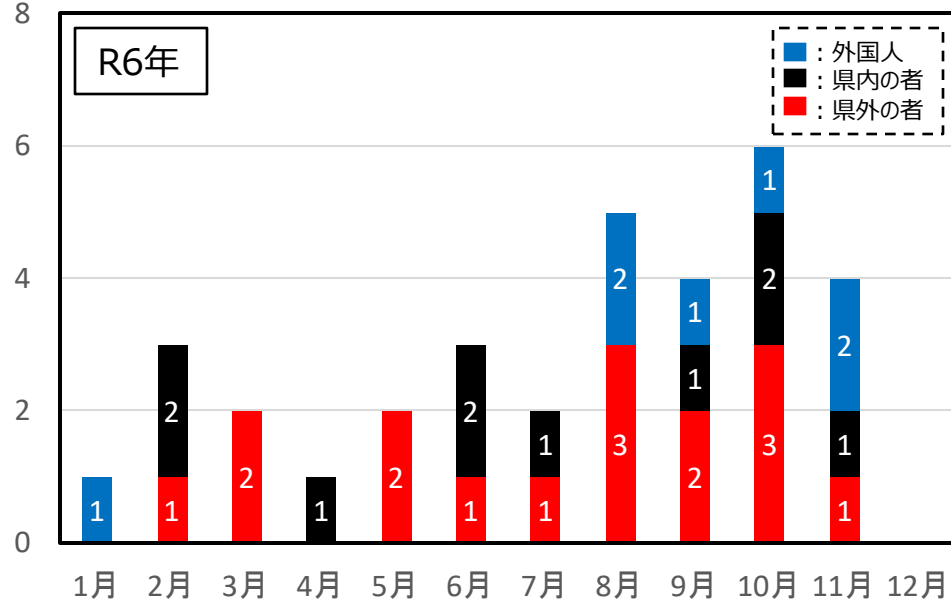
[https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_mn6\\_000027.html](https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_mn6_000027.html)



管内の特性

- マリンレジャーに伴う人身事故総数 R6年 33名 ※**R5年比5名増**  
うち死亡者数 R6年 6名 ※**R5年比5名減(那覇部発足以来最小)**
- **ダイビング中、スノーケリング中の事故の割合が高い**
- SUPや釣りは各年によって、発生トレンドが大きく異なる  
例 SUP : R6年2名 5、4年1名 **3年8名** / 釣り : R6年2名 5年2名 **4年7名**

事故者数(人)

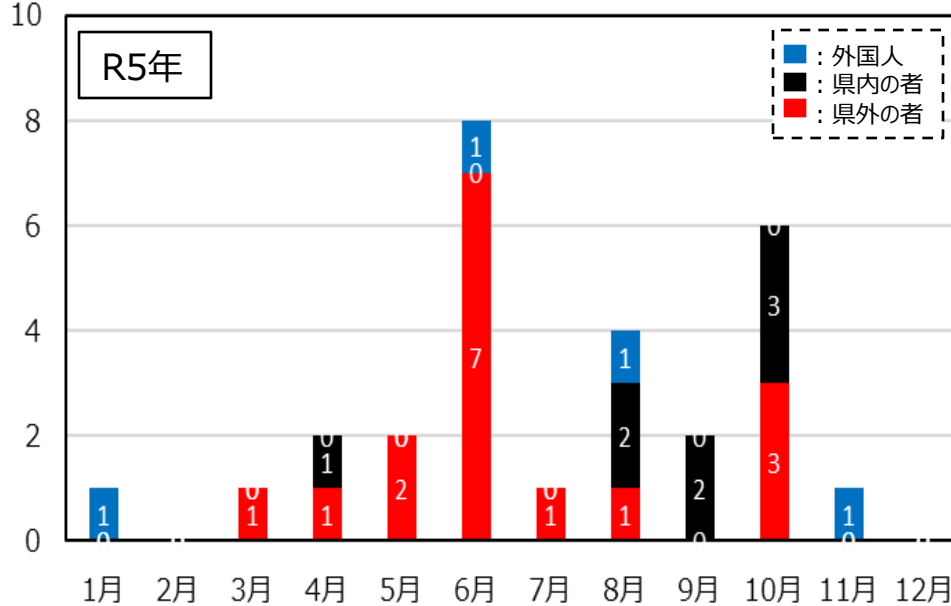


R6年	県外の者	県内の者	外国人
合計(死者)	16名(3名)	10名(2名)	7名(0名)

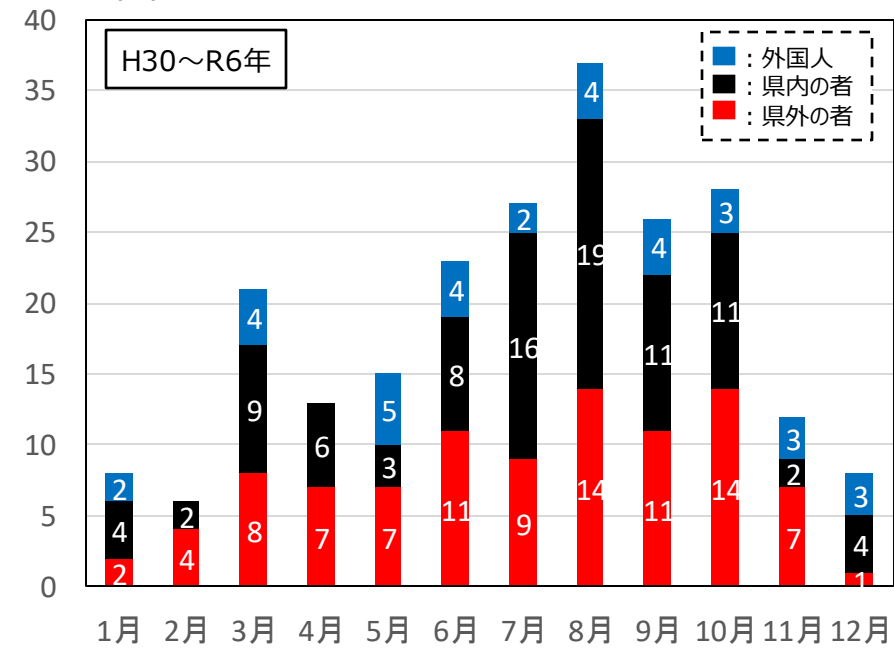
R5年	県外の者	県内の者	外国人
合計(死者)	16名(6名)	8名(4名)	4名(1名)

- R6年の観光客約966万人（前年比約143万人増加）
- 前年比で「**県外の者**」の事故者数は同一。
- 「**県内の者**」「**外国人**」の事故者数が**増加**。
- 年間通してマリレ事故が発生する状況。
- 過去6年間のトレンドとしては、**6～10月がハイシーズン**

事故者数(人)

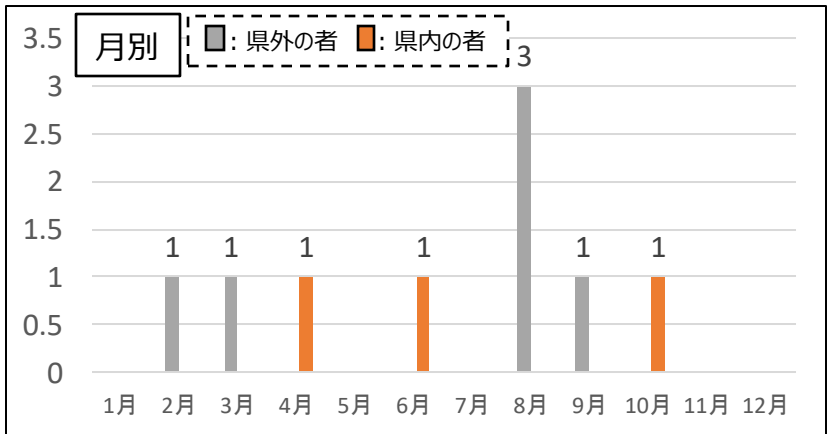
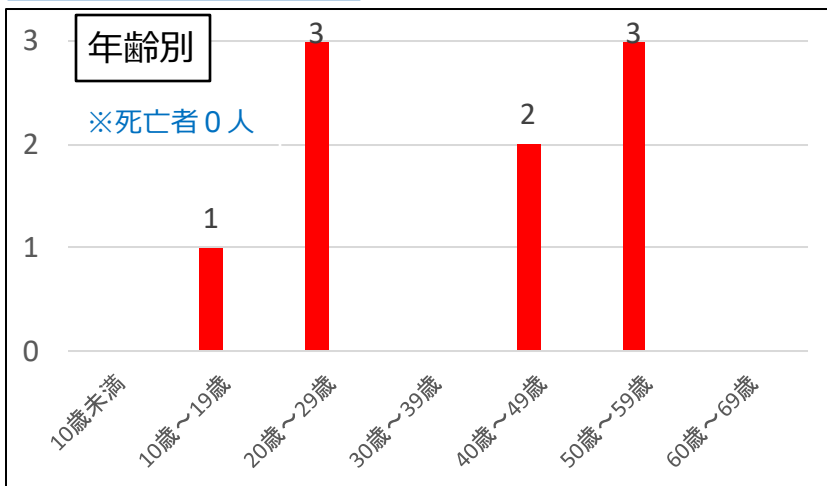


事故者数(人)



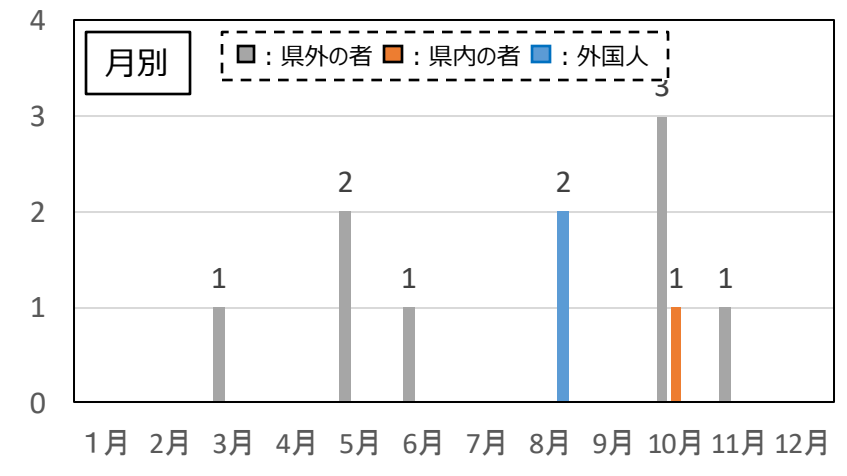
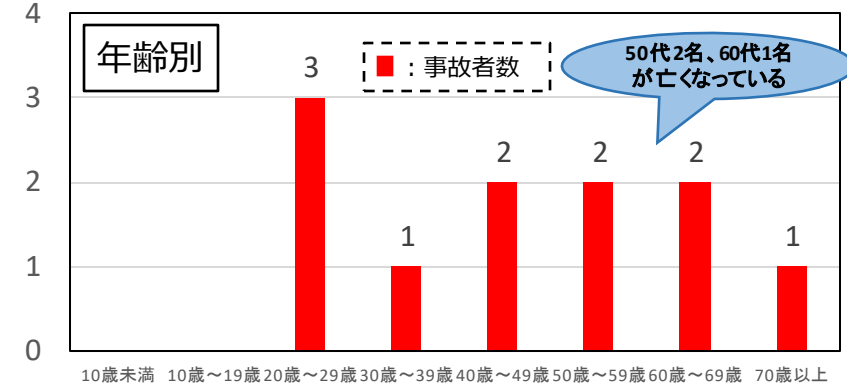
遊泳中（スノーケリング）

■：事故者数 ■：死亡者数



- 20代と50代での事故発生率が高いが、死亡者なし。
- 気温が高くなり始める3月から事故が発生し、下がり始める11月以降は事故ゼロ。
- 県外の者の事故率が高い。（9名中6名）

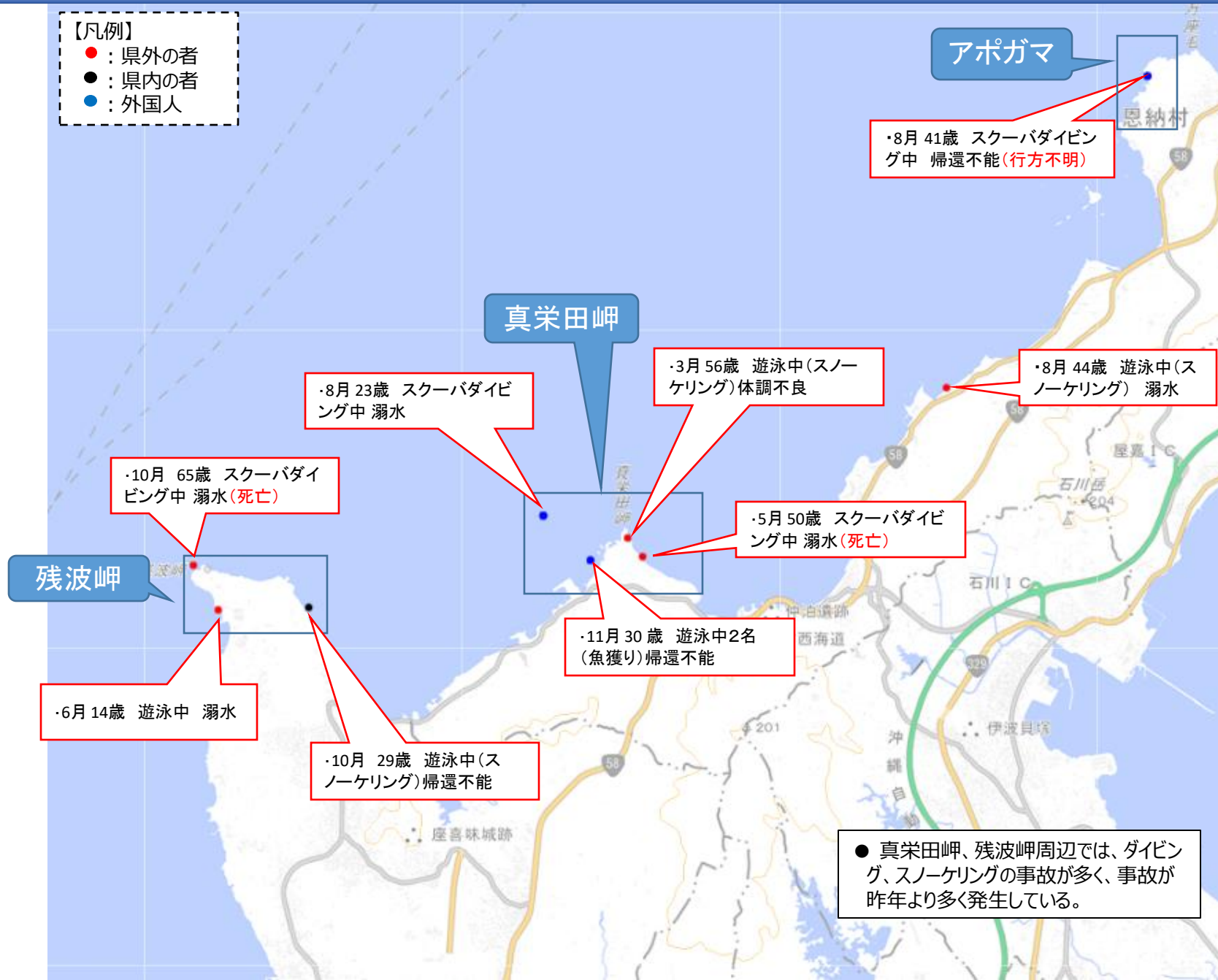
スクーバダイビング中



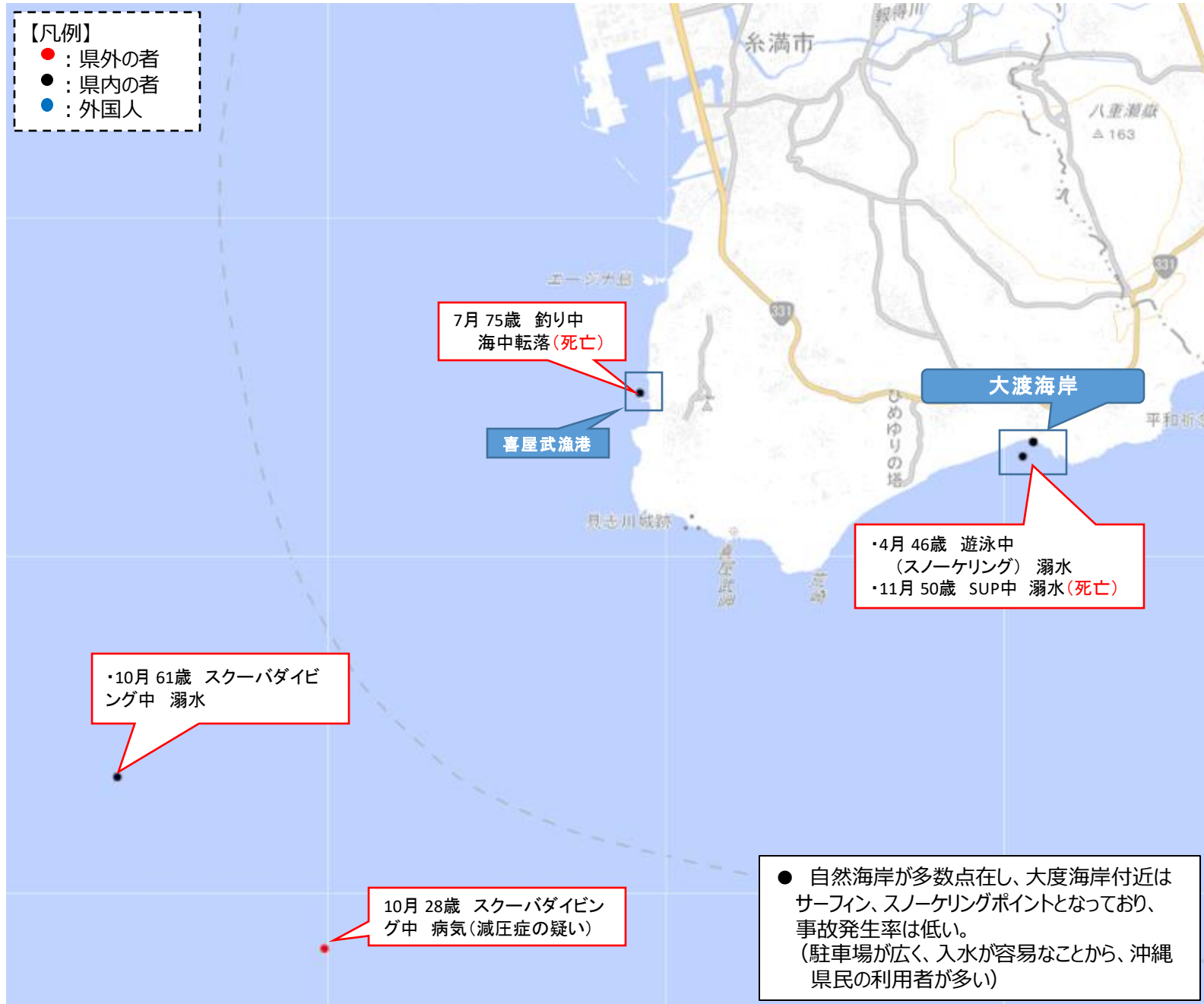
- 死亡者全員が50歳以上。
- スクーバダイビングは1年をとおして行為者があり、例年10月以降にも事故が発生している。
- 県外の者の事故率が高い。

【凡例】

- : 県外の者
- : 県内の者
- : 外国人







- 昨年に続き、慶良間列島（渡嘉敷村、座間味村）のマリレ事故者は全て県外者と外国人
- 例年、マリレジャー事故の殆どが『スクーバダイビング中』・『遊泳中』の事故。

- 【凡例】
- : 県外の者
  - : 県内の者
  - : 外国人

